



# げねつざい 熱さまし（解熱剤）の使い方



## そもそもなんで熱がでるの？

お子様の熱の原因の多くは風邪（ウイルス感染、上気道炎）によるもので、風邪の原因のウイルスをやっつけるための体の生理的な反応になります。特に子どもは普通の風邪でも40℃くらいの熱がでることがあります。

## 熱さましはいつ使うの？

37.5～38℃以上でお子様がぐったりして水分食事がとれないとき、寝られないときに使いましょう。基本的には指示された量（体重で計算されています）を6時間あけて1日3回まで使用できます。（食事と関係なしに使用できます。）

熱がでるのはウイルスをやっつけるための反応でもあるので、お子様がぐったりしていなければ無理に熱を下げる必要はありません。

## 熱さましの種類は？

カロナール細粒（粉薬）、カロナールシロップ、アンヒバ<sup>ざやく</sup>坐薬、アルピニー坐薬などがあります。

どれも成分は同じなので、同時に2種類以上の熱さましを使ってはいけません

## ざやく 坐薬と飲み薬で違いはあるの？

熱を下げる効果については同じです。基本的にはお子様が飲みやすいもの、ご家族様が使いやすいものを選びます。坐薬は小さいお子様がしんどくてお薬を飲んでくれないときに使用できるメリットがあります。

## 熱さましを使うと風邪が早く治る？

熱さましはあくまで熱を下げるのが目的のお薬で、風邪を直接治す効果はありません。

風邪をひいている間は熱さましの効果時間（6－8時間程度）を過ぎると再度熱が上がります。

## そのほか

- ・熱さましは痛み止めとしても使うことがあります。
- ・熱さましをいれて15分以内に嘔吐した（または坐薬がでた）場合、もう一度使ってください。15分以上経過していた場合は6時間以降で使用してください。

2024年5月作成